

公立大学法人

福岡女子大学広報

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

Spring 2018

No. 102

特集

祝卒業

- * 卒業する皆様へメッセージ
- * 卒業生・修了生コメント

福岡女子大学 平成30年度 公開講座のご案内

福岡女子大学では、地域の皆様の生涯的な学習に貢献するため、毎年、様々な公開講座を企画実施しています。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。

「How to Learn English Effectively」

会場 図書館棟1階 LL教室 定員 30名
 対象 TOEIC 400点以上、もしくは同等以上の英語力をお持ちの方
 受講料 各回500円(3回分まとめて申込の場合は1,000円) ※高校生無料

講座番号	日時	テーマ	概要	講師
A-1	11/10 土 10:00~11:30	Learning English through Reading	In 3 lectures, each AEP instructor will each explain one facet of how people can improve their English skills. As most of the lectures will be given in English, participants are required to have intermediate English comprehension skills.	都地 沙央里 (AEP instructor・学術英語専任講師)
A-2	11/17 土 10:00~11:30	Strategies for building conversation.		Timothy PRITCHARD (AEP instructor・学術英語専任講師)
A-3	11/24 土 10:00~11:30	Success in English Tests		Scott SMITH (AEP instructor・学術英語専任講師)

「異国へのいざない~世界を知ろう~」

会場 地域連携センター2階 セミナー室2
 受講料 各回500円 ※高校生無料

講座番号	日時	タイトル	概要	講師
B-1	6/2 土 10:00~11:30	現代台湾における女性 - エスニシティ(民族性)とジェンダーのせめぎあい	台湾は男女共同参画が進んでいると言われていいます。その現状と歴史的背景について考えます。	宮崎 聖子 (国際教養学科教授)
B-2	8/25 土 10:00~11:30	バングラデシュにおけるグラミン銀行の貧困緩和の方法	貧困層を対象とする小規模融資機関としての銀行の役割と、教育や社会開発における活動などのNGOの役割とを果すグラミン銀行の貧困対策とその背景について解説します。	チョウドリ マハブアルアロム (国際教養学科教授)

「知の発信2018」

会場 地域連携センター2階 セミナー室2
 受講料 各回500円(4回分まとめて申込の場合は1,500円) ※高校生無料

講座番号	日時	タイトル	概要	講師
C-1	7/28 土 10:00~11:30	外交官は任地の言葉をどうやって会得するのか	日本人にとって、英語で仕事をするだけでも大変なのに、外交官は時としてフランス語だったり、インドネシア語だったり、中国語だったり、いろいろな言葉の環境の中で暮らして仕事をしています。どうやって言葉を覚えて、使えるようになるのでしょうか。	山下 哲生 (国際教養学科教授)
C-2	8/11 土/祝 14:00~15:30	読み直すラフカディオ・ハーン(小泉八雲)	ラフカディオ・ハーンは日本でも親しまれている作家です。「雪女」「耳なし芳一」などの怪談が読まれてきたばかりでなく、今も様々な形でハーンの文化的遺産が受け継がれています。その一端を紹介します。	長岡 真吾 (国際教養学科教授)
C-3	9/8 土 10:00~11:30	地域での共創と次代を担う世代へのサポート	地域での共創として様々な取り組みが検討されていますが、本講座では、次代を担う世代へのサポートをテーマに、これまでに実施した分析などに基づき、長期的に安定した自立可能な地域づくりについて考察します。	中村 大輔 (国際教養学科准教授)
C-4	10/6 土 10:00~11:30	漱石文芸の哲学的基礎 - 一則天去私の文学の道 -	文学とは何か。人間とは何か。人生とは何か。漱石は一連の問いを真面目に発して応答する。だからテキストの語りは深く力強い。漱石最晩年の鍵語「明暗双双」「則天去私」に、そのリアリズムの神髄を探りたい。	望月 俊孝 (国際教養学科教授)

「自分メンテナンス! ~健康な体を維持するために~」

会場 地域連携センター2階 セミナー室2
 受講料 各回500円 ※高校生無料

講座番号	日時	タイトル	概要	講師
D-1	9/15 土 10:00~11:30	生活習慣病や介護予防としての健康増進活動	身体活動や食習慣などの生活習慣について、生活習慣病や介護予防の側面から、実際の活動例も交えお話しします。	太田 雅規 (食・健康学科教授)
D-2	10/9 火 10:30~12:00	美味しく続ける減塩ライフ【試食付】~高血圧予防の食生活~(定員30名)	高血圧予防の食事のポイントや美味しく続けられる減塩の工夫について、体験をいただきながらご紹介します。	梅木 陽子 (食・健康学科講師)

お申込み方法、受講上の注意点など詳しくは下記URLからウェブサイトをご覧ください。お電話・メールにてお問い合わせください。

お申込み・お問い合わせ | 福岡女子大学 地域連携センター | Tel.092-661-2728(直通) / Fax.092-692-3220
 E-mail kyomenkow@fwu.ac.jp URL <http://www.fwu.ac.jp/collaboration/>

100 未来を拓くなでしこの花
 100th-2023
 FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

公立大学法人
福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 Tel.092-661-2411(代表) Fax.092-661-2415
<http://www.fwu.ac.jp/>

特集

祝 卒業

2018年3月22日、

福岡女子大学 第六十五回 卒業証書・学位記及び
大学院 第二十四回 学位記授与式

が行われ、学部生240名、大学院生22名が
福岡女子大学を巣立ちます。

福岡県立女子専門学校より受け継いだ、福岡女子大学の建学の精神「次代の女性リーダーを育成」は、社会人となる皆さんが引き継ぐこととなります。また、福岡女子大学の学部から大学院教育へと一貫した高等教育は、大学院修了の皆さんから福岡女子大学の後輩学生へと引き継がれます。輝かしい伝統を持つ福岡女子大学で学び、身に付けた能力や経験を発揮し、後に続く後輩たちへの善き道標となるよう、卒業生の皆さんは社会で活躍し、大学・社会へと恩返しをしてください。卒業後は更なる高みの社会で活躍されることを願っています。

学部卒業生および
大学院修了生の皆さん、
ご卒業おめでとうございます。
福岡女子大学を巣立つ皆さんと
ご家族の方々に
心よりお慶び申し上げます。

メ
ツ
セ
ー
ジ
卒
業
す
る
皆
様
へ



福岡女子大学 理事長・学長

梶山 千里

福岡女子大学では
創立100周年を迎える
2023年に向けて、
100周年記念事業の
スローガンとロゴマークを
制定しました。



「スローガン」

未来を拓く なでしこの花

一人を育て、知を生かす

ますます多様化していく世界のなかで公立の女子大学として、人と人、地域と世界に橋を架け、新たな価値創造に挑みます。
なでしこ
福岡女子大学の挑戦、世界へ、未来へ。

「ロゴマーク」

100周年を表す「100」の数字の、つながり・広がるデザインが伝統と未来を表現しています。
また、「1」のフォルムに女子らしい優しさと動きを持たせ、大学のシンボルマークにも用いられているなでしこを中心にして広がる円が、本学から世界へ情報発信する様、世界での活躍をイメージさせます。



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.102 Spring 2018

CONTENTS

01 100周年記念事業スローガン・ロゴマーク

02-05 **特集** 祝  卒業

卒業する皆様へメッセージ
卒業生・修了生コメント

06-11 **FWU NEWS**

06 events

・キャンパスイルミネーション

07-08 international

・派遣交換留学生出発式
・受入交換留学生修了式
・海外留学危機管理セミナー開講
・東亜大学校(韓国)訪問団来学
・日本文化特別講演会開催
・マドヒン大学(タイ)栄養研究所研究者来学

09 outreach

・社会人学び直しプログラム成果発表会開催
・そば打ち体験教室開催
・福岡女子大学女性トップリーダー育成研修開催

10-11 academic life

・国内体験学習プログラム報告会&フォーラム
・福津市郷育カレッジ生
・うちエコ診断士資格取得学習会
・論文賞受賞
・IEEEキャリアアップに関する
エッセイコンテストWIE賞受賞
・統計検定2級・3級合格

12-15 **INFORMATION**

12 福岡女子大学国際化推進基金

ご寄附へのお礼とお願い

・クォーター制導入
・社会人学び直しプログラム4期生募集
・キャンパス敷地内完全禁煙

13-14

・人事消息一覧
・退職者コメント

15 福岡女子大学 平成30年度公開講座のご案内

大学とは

国際教養学科
日本語文化履修コース 4年



是永 真由子さん

大学を卒業すること自体に意味はありません。大学に行つて、何を求め、何を求む、何を求めたのかを全てだと思います。私の場合は、教師という夢の実現に加え、確かな経験に裏打ちされた「自信」を求めて、福岡女子大学に入学しました。4年間の大学生活を振り返ると、教職課程の履修、ボランティア活動に、アルバイト等、様々なことに挑戦してきました。そして、挑戦しただけの成功と失敗も経験しました。特に教育実習では、満足のいく授業が出来ず、放課後一人鼻血を出しながら号泣したこともありましたが、失敗は苦い思い出ですが、それを乗り越えるために寸暇を惜しんで試行錯誤を繰り返して、その結果より良い授業ができた自信、達成感私の宝物です。春には「教師になる」という夢も叶います。4年間支えてくださった先生方(特に今井先生)、職員の皆様、本当にありがとうございました。

環境科学科
環境物質履修コース 4年



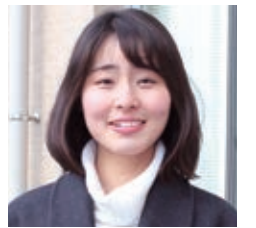
古賀 栞さん

4年間の中で印象深い思い出はオープンキャンパスです。広報サポーターとして4年とも参加しました。私が福岡女子大学を目指したきっかけもオープンキャンパスで出会った先輩たちの雰囲気よかったです。毎年多くの高校生たちと話して女子大の魅力がたくさん伝えられたと思います。毎年参加者も増え、女子大の人気の高さをうれしく思います。福岡女子大学を卒業しますが、女子大の名に恥じないよう努力していきたいと思

福岡女子大学での思い出

4年間の中で印象深い思い出はオープンキャンパスです。広報サポーターとして4年とも参加しました。私が福岡女子大学を目指したきっかけもオープンキャンパスで出会った先輩たちの雰囲気よかったです。毎年多くの高校生たちと話して女子大の魅力がたくさん伝えられたと思います。毎年参加者も増え、女子大の人気の高さをうれしく思います。福岡女子大学を卒業しますが、女子大の名に恥じないよう努力していきたいと思

国際教養学科
欧米言語文化履修コース 4年



甲斐 塔子さん

学問を超えた先の学び

在学中は文化祭実行委員会の広告部長やサークルの副部長をし、NPO法人ドネルモさんへのインターンシップや上海への語学・文化研修にも参加しました。ちなみに「フランクエンシユタイン」で卒論を書き、就職する職にはSEを選びました。人脈は宝です。大学時代において、私は異なる考えを持つ者同士が理解しあい生きていくことの価値を知りました。そして苦悩の多い人生を恐れず生きるための術を学びました。この素晴らしい大学時代を体験できたのは、ほかでもない両親、先生方、友人たちのおかげです。厚く感謝します、ありがとうございました。

環境科学科
環境生命履修コース 4年



大木 栞南さん

たくさんの時間を積み重ねて

「かんちゃん、鍋しよー」と急に研究室で料理をはじめちゃうかわいいう同級生に恵まれ、とても楽しい研究室生活でした。長いコアタイムに最初は不安もありましたが、たくさんさんの時間を共にしたことは、かけがえのない思い出です。一緒に頑張る仲間の大切さを忘れることなく、これからも過ごしていきたいと思

国際教養学科
東アジア地域研究履修コース 4年



嶽下 春菜さん

4年間を振り返って

私は日韓関係について勉強したくてこの大学を選びました。4年生になって日韓関係に関する卒業論文を執筆するため、入学前からの目標は達成できたのかなと思います。卒業を目前に控えて、もっと遊んでおけばよかった、いろいろなことに挑戦すればよかったと思うこともありますが、自分なりに頑張りました。4年間で福岡に行くことを許してくれた両親、そばで支えてくれた友人に感謝し、新たな環境でも頑張っていこうと思

環境科学科
環境生活履修コース 4年

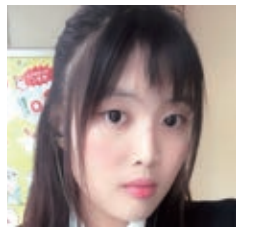


金納 史佳さん

出合いに感謝

大学生生活の4年間は、本当にあっという間で、今思い出してみると楽しかったことばかりが頭に浮かびます。先輩・後輩も含め多くの人の出合いがあり、就活やアルバイト、授業、研究などがつらくても、支えあえる友達がいてくれたから乗り越えることができました。先生方や職員の方にもお世話になりました。福岡女子大学で充実した4年間を過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱい

国際教養学科
国際関係履修コース 4年



GOH JIA YI (ゴ・ジアイ)さん

良い人間関係を築くコツを身に付けた

私が大学で一番頑張ったことは、寮で異文化交流を積極的にを行い、人間関係を築いたことです。多様な文化が共存するマレーシアで育った私にとって、自分とは異なるものを受け入れ、自分の一部にすることは自然なことでした。しかし、私は日本に来て「他人を思いやって話す」ことを学び、さらに大切なことに気づきました。それは相手を受け入れ、譲り合い、協調することです。これにより4年間の寮生活を楽しく過ごすことが出来ました。衝突した場合には正直に、優しい言葉で話をするようにすれば、きっと色々うまくいくと思

環境科学科
国際環境政策履修コース 4年

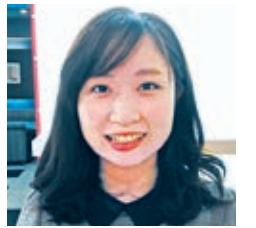


亀谷 緑さん

何度もチャレンジ

私が先輩に伝えたいことは、「大学生の間はどんなことにも挑戦すること、もしそれが上手くいかなくても、次にまた何かをやってみる」とです。一度した経験は、次の機会に何かしらつながってきます。私の場合は、ドイツで1ヶ月間の語学研修、子どもたちを海外に連れていくボランティア、JOMATES、海外体験学習など、やりたいと思

国際教養学科
国際経済・マネジメント履修コース 4年



福田 葉月さん

深い関わりを持てる大好きな場所

この大学で4年間過ごして、学生や教授、大学のスタッフの皆様一人ひとりと深く繋がること、自分の人生の財産になったと感じています。寮生活や少人数授業によって、友達といろんなことを話すことができました。就職活動の時、友達とお互いを高めあい応援し合いながら、将来のことをじっくり考えることができました。また、オープンキャンパスのスタッフをしたことによって、改めて福岡女子大学の学生としての誇りを感じ、自信を持って次のステップに進むことができます。充実した4年間、楽しかったです！

食・健康学科
4年



藤本 彩花さん

学生生活を振り返って

非常に濃密で有意義な4年間でした。講義や実験が予想以上に多く、慌ただしい毎日ですが、これもありました。それを乗り越えられたのは熱心に指導してくださった先生方、どんなときも心の支えになってくれた友人、いつも応援してくれた家族のおかげです。切磋琢磨し共に成長したかけがえのない35人の同学科の仲間に出会え、本学に入



events

2017.12.4-12.25

キャンパスイルミネーションを実施しました。

福岡女子大学では、キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層の交流を深めることを目的として、初めてキャンパスイルミネーションを実施しました。

初日である12月4日の点灯式では、参加者のカウントダウンに合わせて、梶山千里学長、江島玲子同窓会副会長、中山利明香住丘校区自治協議会会長、松下美紀客員教授がスイッチを押すと、メインストリートにある桜の木21本に取り付けられた約1万球のLEDが一斉に点灯し、大きな歓声が上がりました。

会場では、九州北部豪雨の甚大な被害から立ち直り製造を再開された株式会社篠崎の甘酒や本学同窓会からお菓子が振る舞われ、参加した地域の方々や学生たちは、福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラのアンサンブル演奏を聴きながら華やかな雰囲気を楽しみました。

12月16日には、イルミネーションを背景にミニコンサートを開催しました。本学学生3グループ、教職員2名に加えて、地域のギターサークル2組にもご出演いただき、様々な編成で奏でられるクリスマスソングを中心とした曲の数々を楽しみました。

福岡女子大学では、今後も地域の方々にとって身近な場所となるよう、様々な取り組みを行ってまいりますので、皆様のお越しをお待ちしています。



点灯式



福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ
アンサンブル演奏

点灯式

2017
12.4

コンサート

2017
12.16



Mini concert



株式会社 松下美紀照明設計事務所 代表
松下 美紀氏

松下美紀氏が 客員教授に就任しました。

松下美紀氏(株式会社松下美紀照明設計事務所代表)が本学の客員教授に就任し、デザインをご担当いただいたキャンパスイルミネーションの点灯式において、辞令交付式を行いました。既に大学院人間環境科学研究科の講義をご担当いただいておりますが、今後も講義や講演等を行っていただく予定です。

大学院生活は私にとって欠かせないものでした

大学院では、研究の環境として、イギリスで調査を行い、また、得たことを学会で発表するなど、貴重な経験をすることができました。これらの経験は学びへのさらなる意欲に繋がります。研究はもちろん、普段の講義でも今まで以上に楽しく積極的に勉強に励むようになりました。

同級生が就職したことに不安や焦りを感じたこともありましたが、この2年間は「自ら学び続けることの大切さとその楽しさ」を実感した、人生において大切な時間だったと思います。

人文社会科学研究科 言語文化専攻
英語圏言語文化コース 2年



中尾 ロシオさん

社会に還元できる研究を

2年前の大学4年次、私は修士課程への進学を決めました。そしてこの春、博士後期課程を受験し、研究者としての道を進みたいと考えています。研究室での活動を通し、私たちの研究によって社会の身近な問題を解決する糸口が見つけられると分かったからです。人とは違う道かもしれませんが、自分の選んだ道に自信と責任をもってこれからの学びを続けていきます。修了に際し、これまでご指導くださった先生方にお礼を申し上げます。

人文社会科学研究科 社会科学専攻
国際産業社会コース 2年



藤野 夏海さん

為せば成る、為さねば成らぬ何事も

私の学生生活はとにかく破天荒でした。大学院入学の際は、就職先も決まり、引越越し先を探している中迷いが生じ、大学院入学申し込みが切3日前に大学院へ進学することを決め、現在卒業に至ります。大学院へ進学したことにより、スウェーデンへの研究留学や博多ライトアップウォークの照明デザインにも携わることが出来ました。大学院でお世話になった森田教授やその他のの方々には大変感謝しております。これからも悔いがない人生を送りたいです。

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻
環境マネジメント領域 2年



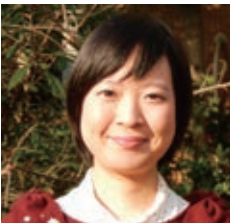
甲斐 愛梨さん

6年間の感謝の気持ちをこめて

私は、大学の4年間と大学院の2年間、計6年間をこの福岡女子大学で過ごしました。長いように思えた月日は、あっという間に過ぎていきました。初々しかった大学1年生の頃に比べると、6年間で多くのことを学んだ私は、少しは成長できたのではないかと感じています。

これからは一人の社会人として、どんな時でも女子大で培った日々を忘れず、誇りに思い胸を張って生きていこうと思います。6年間、本当にお世話になりました。

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻
環境自然科学領域 2年



吉永 美和さん

学生のうちに多くの経験を

食・健康学科に4年、大学院に2年、計6年間の学生生活では勉強、実習、研究、バイト、部活、一人暮らしなどたくさんの経験をし、多くのことを学びました。学生の時間は有限ですが、学生のうちにできること、選択肢は無限にあり、何を、どのように経験し、そこから何を学べるかは全て自分次第です。経験は価値観を変え、自分の考えや進むべき方向に気づかせてくれます。学生時代には是非多くのことに挑戦し、色々な人に出会って視野を広げ、自分の進む道を決めてください！

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻
栄養健康科学領域 2年



岡田 朋恵さん

international

2017.11.28 東亜大学校(韓国)訪問団が来学しました。

11月28日に本学の協定校である東亜大学校(韓国)より4名の教職員と40名の学生が、本学のキャンパスを訪れました。

本学の韓国への留学経験者と、東亜大学校から本学へ留学中の交換留学生が参加し、学生間での積極的な交流を行い、お互いの国・大学への関心が高まりました。東亜大学校の訪問団の中には、将来的に日本留学を目指している学生も複数名おり、本学を実際に訪れたことで、日本留学へのより具体的なイメージをつかむことができたようです。

最後にキャンパスツアーを実施し、本学の新しい校舎や寮を見学しました。本学と東亜大学校は2015年より交換留学の派遣・受入をはじめとした学生交流を活発化しており、今後もさらなる交流が進むことが期待されます。



2017.11.29 「講師・神田紅」来たる！
日本文化特別講演会を開催しました。

11月29日に福岡県出身の講師、神田紅氏(日本講談協会会長)による日本文化講演会を開催しました。この講演会は本学が開講する日本現代文化を学ぶ短期国際教育プログラム:The World of Japanese Contemporary Culture Program (WJC)の一環で開講する特別講義で、講師に日本を代表する著名人を招き、外国人留学生を含む在学生の日本文化(伝統と現代)に対する理解を深めることを目的として毎年開催しています。神田紅氏は「芝居講談」という新しいジャンルを開拓され、古典から現代ものまで幅広い作品を得意とされています。今回の講演会では、古典講談「鉢の木」を題材に、江戸時代から伝わる「講談」の魅力や、実技も交えながら、留学生にもわかりやすく解説していただきました。



2018.1.23 CASEUF (Consortium for ASEAN-EU-Fukuoka Universities) 共同研究
マヒドン大学(タイ)栄養研究所の研究者が来学しました。

本学は、2016年にEUとASEAN地域の学術交流協定校9大学と Consortium for ASEAN-EU-Fukuoka Universities (日本語名: ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡)を設立し、国際的な研究・教育連携と人材交流を推進しています。研究では、3つの分野(食の安全、地球環境、女性の社会参画)で共同研究を実施し、研究者間の交流が活性化しています。このうち食の安全に関する共同研究ではマヒドン大学と連携しており、1月23日にマヒドン大学栄養研究所の Ratchanee Kongkachuichai 所長と Weeraya Karnpanit 博士が本学の食・健康学科を訪問し、本学の研究者と共同研究の具体的な意見交換を行った後、研究設備を視察しました。意見交換では大学院生の相互交流の必要性についても議論され、今後の若手研究者交流への発展が期待されます。



international

2017.12.13 派遣交換留学生の出発式を開催しました。

12月13日に、2018年春に交換留学に出発する本学学生の出発式を開催しました。今回は19名の学生が交換留学に出発します。式の中では派遣学生達が1名ずつ出発に向けての決意表明のスピーチを行いました。

交換留学は、派遣先の大学での専門科目の履修が求められます。期待と不安が入り混じる中、本学副学長より激励のメッセージが贈られ、派遣学生達は出発に向けて一層気が引き締まったようでした。

2016年度に22名の学生が交換留学に出発し、2017年度は合計で38名の学生が派遣されることになりました。近年、本学では交換留学を目指し入学してくる学生も多く、今後も多くの学生が交換留学に挑戦することが予想されます。

世界で活躍する女性リーダーとなる人材を育てるべく、本学は交換留学制度の拡大を図っていきます。



2018.1.24 受入交換留学生の修了式を開催しました。

国際文理学部では、日本語で専門科目を学ぶ交換留学生を海外協定校から積極的に受け入れています。2017年度の後期には、中国と韓国の合計4大学から9名の交換留学生が在籍しています。

1月24日に、この学期をもって留学期間を満了し帰国する交換留学生の修了式と送別会を開催しました。式には教職員に加えて、共に学んだ学部留学生や、留学生の学習や生活面でサポートをしているJD-Matesの日本人学生も参加して、賑やかな雰囲気の中で行われました。

来日直後は日本語を十分に話せなかった留学生達も、修了式では全員が流暢な日本語で挨拶をしていたのが印象的でした。交換留学生の多くは、所属大学で日本語を専攻しており、日本の大学院への進学や日本での就職を目指すことも多いようです。本学での経験を糧に、将来、日本で活躍する人材となってくれることを期待しています。



2018.2.9 海外留学危機管理セミナーを開講しました。

2月9日、2月から4月に海外留学に出発する学生を対象として、海外留学危機管理セミナーを開講しました。これは、近年テロや自然災害などが多発する状況をふまえ、海外へ渡航する学生のリスク管理を徹底すべく渡航前に行なっているものです。当日は、本学が包括契約を結んでいるジェイアイ傷害火災保険株式会社より講師をお招きし、海外へ渡航するにあたってどういった危険が潜んでいるのか、またもし巻き込まれた場合、どのように対処すべきなのか、といった危機管理について、映像を交えてお話いただきました。様々な事例を知ることで、渡航する学生が自分で自分の身を守ることの必要性を認識し、危機管理の大切さを改めて考えるいい機会となりました。



academic life

国内体験学習プログラム報告会
&フォーラムを開催 ■ 2018.1.16

国際文理学部の7つの特色のひとつである「体験学習」。今や多くの大学で体験的な学習が展開されるようになり、本学でも、さらなる拡大・充実が求められています。

今回の報告会&フォーラムは、学生や受入先・地域の皆さん、そして教職員が、「体験を通して学ぶ」ことの意義を一緒に考えることが目的でした。これまで、個別プログラムでの、あるいは、複数プログラムの履修生をのみの報告会は実施されていましたが、今回は、プログラムの壁を超え関係者が成果や課題を共有するという初めての試みで、多くの気づきが得られました。

次年度は、正規科目としての体験学習プログラムの充実はもとより、委員会や寮のチーム活動等大学が提供する課外活動や、学生が自主的に行う活動等の全容を把握しつつ、「体験を通して学ぶ」の体系化・構造化に取り組みます。



体験学習専門部会長
国際文理学部 准教授
和栗 百恵

福津市 郷育カレッジ生が「福岡女子大」を学ぶ ■ 2017.12.15

7年目となる今年度は、広報サポーター(学生)や図書館、「カフェNanの木」の協力のもと、8名の受講生が学びました。

初めて学内に入った方も、この講座が好きで毎年リピーターとして受講される方も、日本人&ベトナム人留学生とのキャンパスツアーや昼食、留学・就活体験のプレゼンテーションを楽しまれた様子。「また来たい!」と帰っていかれました。



郷育カレッジに参加して

プレゼンターとして、留学や就職活動を通して私が考える女性リーダー像について発表しました。発表後の質疑応答の際には様々なお話を伺うことができ、私自身が学ぶことの多い時間を過ごしました。郷育カレッジを受講されている皆さんは人生経験豊かな方ばかりでした。学生時代の過ごし方や仕事に対する向き合い方など、同世代との交流だけでは得られない貴重なアドバイスをいただきました。改めて女性としてこれからどう生きるべきかを考える機会となりました。



環境科学科 4年
西山 佑さん



「うちエコ診断士」資格取得のための学習会に参加して



環境科学科 3年 坂本 夏海さん
環境科学科 2年 坂本 真希さん
環境科学科 2年 花田 唯さん

うちエコ診断士とは、環境省の「うちエコ診断ソフト」を用いて、各家庭の光熱費やCO2排出量を「見える化」し、各家庭のライフスタイルに合わせたアドバイスや提案を行うことができる、環境省認定の公的資格です。本年度前期から環境生活学研究室の岩崎先生が希望者に対し、うちエコ診断の体験や筆記・実技試験対策に向けた学習会を実施してくださいました。学習会では、テキストの内容でわからないものがあれば先生が解説してくださいましたので、地球温暖化の現状やエコな取り組みについてより理解が深まりました。そして、7月末に学習会参加者3名が平成29年度「うちエコ診断士資格試験」を受験し、全員合格することができました。今後は、うちエコ診断士の資格を活かして地球温暖化防止のために積極的に活動していきたいです。(文:坂本 真希さん)

outreach

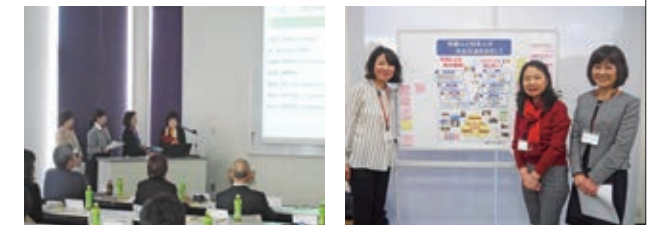
2018.2.3 社会人学び直しプログラムの成果発表会を開催しました。

2月3日、社会人学び直しプログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の成果発表会を行いました。

モジュール1では、ファシリテーションを通じてチームでの協働を学び、モジュール2ではリサーチを通じて新たな機会を発見し、アイデアを創出するデザイン思考のプロセスを学びました。モジュール3では、受講生一人ひとりが抱える問題意識をテーマに、その問題を解決するためのプランを作るプロジェクトを実践しました。

全10チームの発表は多様なテーマが取り上げられ、ポスターを用いたフィードバックセッションでは実現に向けてのアドバイスが熱く繰り広げられていました。

問題を見つけ解決していく力を養うこのプログラム(第3期)も無事に終わることができました。このプログラムの運営にご協力、ご尽力いただきました先生方、関係者の皆様に熱く御礼を申し上げます。



2018.1.21 そば打ち体験教室を開催しました。

1月21日に、福岡市東区香住丘公民館と共催で、そば打ち体験教室を開催しました。これは、地域の方々と留学生が、日本文化を通して楽しく交流を深めることを目的として始めたものです。6回目の開催となる今回は、留学生を中心に17名の学生が参加しました。

当日は、学生と地域の方約5名から成るグループに、「福岡そばの会」講師の方が1名つき、そば打ちの実演後、全員が水回し(そば粉に水を均等に行き渡らせる作業)から切りまでの一通りの作業を、助言をいただきながら体験しました。

学生たちは、初めてのそば打ちに戸惑うこともあったようですが、丁寧なご指導のもと作りあげたおそばを味わいました。「福岡そばの会」の方々をはじめ、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

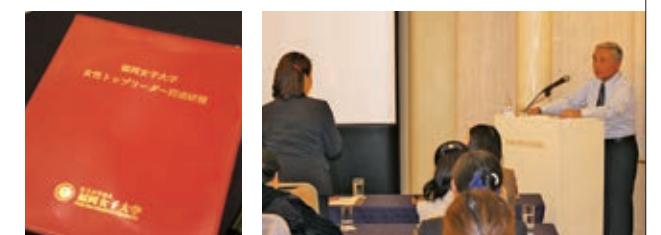


2017.11.30-12.2 2018.1.23 福岡女子大学 女性トップリーダー育成研修を開催しました。

福岡女子大学女性トップリーダー育成研修は、主に管理職クラスの女性を対象として、トップリーダーとして必要な素養を身につけネットワークを構築し、さらに上の階層を目指す女性のための研修で、昨年に引き続き、2回目の開催になります。

受講者に地元企業や団体で活躍する女性18名を迎え、女性トップリーダーとして成長するための戦略プログラム「志」「感性」「教養」「行動」を軸に、産学官の第一線で活躍するトップによる講義と対話、グループディスカッション等を行いました。受講者は「女性トップリーダーとしての本質的な心構え」に重点をおいて集中的に学び、また今後トップリーダーとして取り組みたい課題について考察・発表しました。

※内閣府「地域創成加速化交付金」による福岡県事業「ふくおか創生人材育成事業」の「福岡県女性リーダー養成事業補助金」を受けて実施しています。



一般社団法人九州経済連合会 会長 麻生 泰氏

「福岡女子大学 国際化推進基金」ご寄附へのお礼とお願い

平成23年4月の新学部(国際文理学部)の発足に伴い、その教育理念をより強力に実現するため、大学の国際化を積極的に推進することを目的とした「福岡女子大学 国際化推進基金」を創設し、平成22年12月から寄附金の募集を開始しております。

これまでに、本学卒業生の皆様を始めとして多大なご協力・ご支援を賜っており、ご寄附を頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

本号では、平成29年9月1日から平成30年2月28日までにご寄附をいただいた皆様のうち、掲載についてご了解を頂いた方々のご芳名をご紹介します。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

お名前だけの掲載についてご了解いただいたご寄附者様

須藤 壽恵様 (7) 帆足 靖子様 (5) 石川豊美様 (1)

※()内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

福岡女子大学 国際化推進基金 ご寄附の状況
(平成30年2月末日現在)

年度	寄附件数	寄附金額
平成29年度	92件	2,332,000円
総計	1,484件	37,933,000円

※総計は平成22年度から平成29年度まで

「福岡女子大学 国際化推進基金」についての詳しい情報については、大学のウェブサイトをご覧ください。下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。




福岡女子大学 国際化推進基金 に関するお問い合わせ先	公立大学法人 福岡女子大学 福岡女子大学 国際化推進基金事務局	〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 Tel. 092-661-2411 (代表) Fax. 092-661-2420 E-mail fukujokin@fwu.ac.jp
-------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

福岡女子大学は2018年4月よりクォーター制を導入します。

本学は「次代の女性リーダーを育成」という理念の下、国際的な視野と幅広い教養を持った人材の育成を行ってまいりました。この人材育成をさらに推進するためには、多くの学生が、学外で多様な活動を体験することが有効であると考えられます。

クォーター制は、そのことを推進するための方策のひとつとして導入するものであり、海外留学や国内外のインターンシップなどに参加しやすくするための制度です。また、短期集中的な学修による勉強の効率化も期待されます。

3つのメリット

 <p>海外留学しやすくなる —柔軟なカリキュラムの構築— 学期と休業期間を組み合わせるなど工夫調整することで、海外留学に参加しやすくなります。</p>	 <p>集中的に学修が可能 —教育効果の向上、教育の質の担保— 週2コマ×8週の授業により短期集中的に学修することができます。</p>	 <p>多様な学外活動 —長期学外学修の推奨— 国内外のインターンシップに参加するなど、自主的な学修の選択肢が広がります。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

社会人学び直しプログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」4期生の募集が始まりました。

4年目を迎えたこのプログラムは、企業や組織で働いている方、起業を目指している方、子育て中で仕事を中断されている方、キャリアアップやステップアップを目指している女性を対象とした講座です。開講以来100名近い修了生が「自ら学ぶ」「他者から学ぶ」スタイルで深めた対話を促進するファシリテーションや、安心安全な場づくりのスキルを活かし、職場や地域で自分らしく自然にイキイキと活躍しています。講座は、他者を巻き込み、推進していく力でもあるファシリテーション力を身につけるモジュール1、創造性を磨く・デザイン思考実践のアプローチで課題を創出・設定し、アイデアを共有し、持続的に実現可能な環境や仕組みを練り上げるモジュール2、受講生自らが持つ課題をイノベーション実践プランとして作り上げるモジュール3の3つのモジュールから成っています。

3月1日より、平成30年5月開講
4期生の出願受付が始まりました。

- ◆ 受付期間
第1期 出願/3月 1日(木)~3月11日(日)
第2期 出願/3月19日(月)~4月 8日(日)
- ◆ 選考日程と合格発表
第1期 選考日/3月17日(土)、合格発表/3月22日(木)
第2期 選考日/4月14日(土)、合格発表/4月17日(火)

出願についての詳しい内容は、
ウェブサイトよりご確認ください。

ぜひウェブサイトをチェックしてください! **福岡 学び直し** **検索** <http://www.fwu.ac.jp/manabi/youkou/>

キャンパス敷地内完全禁煙 —敷地内に喫煙スペースはありません—

本学は2018年4月から、キャンパス敷地内を完全禁煙とし、教職員・学生等、全構成員を挙げて、この実現に取り組んでいます。

academic life

論文賞の受賞 ■ 第60回大気環境学会の総会にて「論文賞」受賞 2017.11



国際文理学部
環境科学科 教授
馬 昌珍



日・中・韓3国の大気環境学会の共同事業として発行している国際論文集「Asian Journal of Atmospheric Environment (AJAE)」(Scopus, 4,000以上の国際的な出版社から出版される科学・技術・医学・社会科学のタイトルを網羅する抄録・索引データベースに登録されている)に掲載(Vol. 10-2, pp. 114-123, June 2016)された「Chemically Aged Asian Dust Particles Proven by Traditional Spot Test and the Most Advanced micro-PIXE」(著者: Chang-Jin Ma, Susumu Tohno, Gong-Unn Kang)が、論文賞に選ばれ、2017年11月韓国テグで開催された第60回大気環境学会の総会にて受賞しました。

今回の論文は、従来その製作が難しいと言われてきた試薬の処理がなされた薄膜に個々の黄砂粒子を捕集し、化学反応の結果より個別黄砂粒子の化学的変質を評価するとともに、最先端分析技術の一つであるMicro-PIXE(マイクロ粒子励起X線技術、日本原子力研究所高崎研究所所在)法を用いて、個々の黄砂粒子の化学的同定を明らかにしたものです。個々の大気粒子の分析において、世界初の伝統工法と最先端分析技術の融合により、それぞれの利点を生かした研究結果を生み出すことに成功しました。

第9回 IEEE キャリアアップに関するエッセイコンテスト WIE賞の受賞 ■ 2017.12.2

IEEEは世界最大規模の電気・電子・情報工学分野の国際的学会です。身近なところでは、有線・無線LANの世界標準規格を策定しており、私達がインターネットを使えるのもIEEEのおかげと言ってもいいかもしれません。WIE(Women in Engineering)は女性技術者・研究者の自立と連携を支援するIEEEのグループです。理系女子を表す「リケジョ」という言葉があるように、日本では理系の女子が非常に少ないという現状です。こうしたことは日本だけでなく海外でも問題とされており、WIEでは女性のキャリア形成を支援する活動が行われています。今回のエッセイコンテストもその一環として行われました。

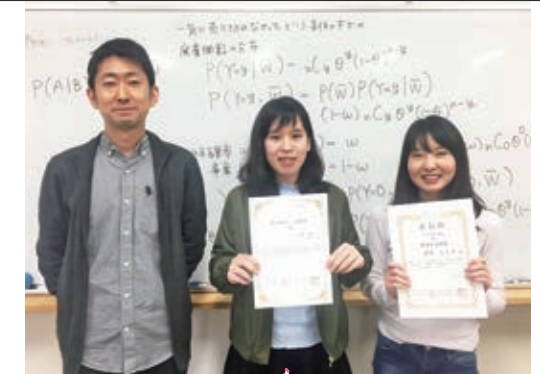
エッセイでは、私自身のこれまでの経験を交えて福岡女子大学での教育・研究活動に関して執筆致しました。今後もリケジョをはじめとする女性の活躍推進に向けた活動に取り組んで参ります。



環境科学科 准教授
藤岡 薫

統計検定2級・3級に合格 ■ 2017.11

環境情報学研究室では、今年度配属された3年生から、統計検定の受験を推奨しています。統計検定は、日本統計学会が公式認定し、総務省が後援する全国統一試験です。データに基づく意思決定が求められる時代の要請に応じて2011年に発足しました。昨年の11月に実施された試験で、本研究室から2級に1名、3級に2名の合格者が出ました。3級のうち1名は最優秀成績賞を受賞しました。(環境科学科3年 前田もも子さん:写真右) 今後は、より実践的な能力の問われる準1級の合格者の輩出を目指します。



環境科学科 准教授
藤野 友和

私は、前期で応用統計学を受講し、その後1ヶ月ほど勉強して受験しました。そのため、解ける問題も多くありましたが、新しい知識も必要で、さらなるレベルアップができました。研究室のゼミにも役立てることができ、受験してよかったと思っています。

統計検定2級合格
環境科学科 3年
緒方 実咲さん

● Learning Is Your Goal

Thank you to the students of FWU who made my time here enjoyable. You are a unique group of people and I wish you the best in your future goals. I hope that you have learned something from my classes. Remember that learning is up to you, and do not be afraid to ask hard questions, especially WHY? Help each other and you will all succeed.



AEP 講師
Robert Cochrane

● 母校のみなさま

在学生の頃より、本学の先生方と事務職員の方々には、大変お世話になりました。研究と教育の面白さに出会う場を与えてくださったことに、深く感謝申し上げます。教室では、知的好奇心の豊かな学生さんたちと出会い、共に学問する機会に恵まれました。授業だけでなく、彼女たちと読書会や食事会をできたことは、とても良い思い出です。皆様のご多幸を、心よりお祈り申し上げます。



AEP 講師
石田 由希

● 退任あいさつ

平成25年4月に福岡女子大学勤務を命じられ5年が経ちます。この間、本学は大きく変貌を遂げています。校舎の全面改築による快適に学べる環境の整備、学長指導による教職員の意識改革・国際化の進展・大学院の設置等々の改革推進です。成果として偏差値の大幅アップ等目覚ましいものがあります。

また、事務職員のプロパーを推進し、若くて優秀な人材の確保に努めました。

今後の大学の運営・経営は職員の手腕に懸かっており、常に改善・改革を念頭に精進されることを期待しています。

教員・学生の皆様と接する機会が少なく残念な思いもありますが、少ない中にも思い出に残ることも多々ございました。

大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



常務理事兼事務局長
高山 晃

人事消息

【教員】

退職	国際教養学科	教 授	徳永 紀美子	2018.3.31付
	環境科学科	教 授	田村 典明	
	食・健康学科	准 教 授	高 橋 徹	
	食・健康学科	助 手	濱野 桃子	
	共通教育機構	AEP 専任講師	石田 由希	
共通教育機構	AEP 専任講師	Robert Cochrane		

【職員】

新任	学 務 部	国際化推進センター	Cardinal Maria Gracita	2018.11付
	経営管理部	総務・財務班	平川 美也	2018.2.1付
退職	学 務 部	常務理事兼事務局長	高山 晃	2018.3.31付
		教務企画班長	宗 康成	
		教務企画班	小野 舞子	
		入誌広報・キャリア支援センター	柳田 直美	
経営管理部	総務・財務班	越智 悦子	2018.1.31付	

● ありがとうございました

福岡女子大学に勤めさせていただいた5年間は振り返ってみればあっという間でした。学生や卒業生の方、お世話になった教職員の方々のおかげで、充実した日々を過ごすことができました。どれだけの貢献でもって返せたかはわかりませんが、卒業生でもありますので、退職した後もまた別の形で恩返しができたら、と思っております。ありがとうございました。



教務企画班
小野 舞子

● 福岡女子大学 関係者の皆様へ

今まで約9年間お世話になり、本当にありがとうございました。

新学部・大学院の設置、カリキュラム改定・クォーター制の導入など大学改革に関わらせていただき、多くの教職員の皆様と仕事をさせていただいたことは、一生の思い出となりました。

在職中はたくさんの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。最後になりましたが、皆様のさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



教務企画班長
宗 康成

● 大変お世話になりました

母校に戻り、学生や多くの先生方との交流を通じて学生と共に多くのことを学び、また、たくさんの楽しい思い出を作ることができました。在職期間中に、私が学生の時に過ごした学び舎や受けた教育が大きく変化し、その移り変わりを肌で実感できたことは、とても貴重な経験となりました。本学で学んだことを今後の活動に活かし、卒業生として活躍することで本学の発展にこれからも貢献したいと存じます。本当にありがとうございました。



食・健康学科 助手
濱野 桃子

● 生生流転

1991年に着任して早々、大学設置基準の大綱化が施行され、その後、家政学部から人間環境学部への改組、2研究科の設置、認証評価の受審、大学法人化、国際文学部への改組、現研究科への改組・新設と、様々な変革等を数年おきに経験しました。この間、本学のもつ良さをどのように外に発信していくかに腐心してきました。大きく繁っていたメタセコイアや相思樹等はキャンパスからなくなりましたが、新たな緑が新キャンパスに息吹くことを期待しています。



環境科学科 教授
田村 典明